



ハイパーオートメーション による

業務プロセスの自動化とは？



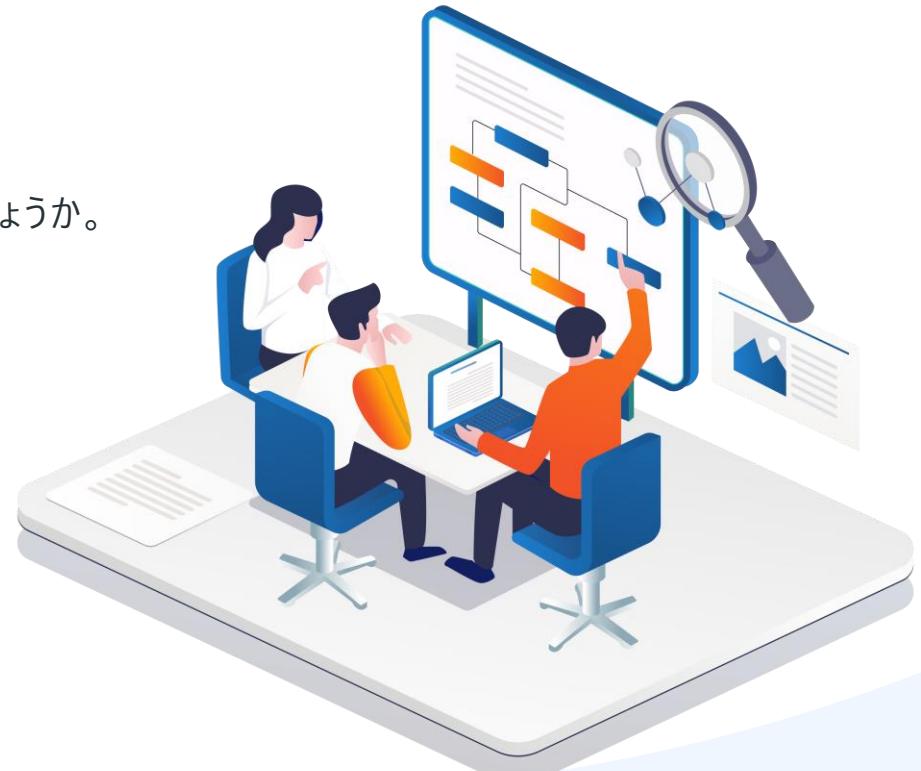
はじめに

労働力不足や競争の激化といった課題に直面する現代の企業において、業務プロセスの効率化と自動化は避けて通れないテーマです。

なかでも、幅広い業務範囲での効率化を実現する[ハイパーオートメーション](#)は、多くの企業にとって強力な武器となります。

一方で、ハイパーオートメーションに関して詳しく知らないという方も多いのではないでしょうか。そこで本稿では、以下のような方に向けて、ハイパーオートメーションの概要やメリット、実現イメージなどをご紹介します。

- 業務プロセスの自動化に興味がある方
- RPAをすでに導入しているものの、より広範な業務の効率化を目指したい方
- 業務におけるミスが多発しており、改善したい方



目次

1. 企業における業務自動化のトレンド
2. ハイパーオートメーションとは
3. RPAとハイパーオートメーションの違い
4. ハイパーオートメーションの導入メリット
5. ハイパーオートメーションを実現するための技術要素
6. ハイパーオートメーションの実現イメージ
7. ハイパーオートメーションの導入プロセス
8. ハイパーオートメーション実現に向けた課題
9. ハイパーオートメーションの実現に有効な「intra-mart」とは？
10. intra-mart によるハイパーオートメーションの実現事例
11. まとめ



企業における業務自動化のトレンド

人手不足倒産がトレンドワードとなるなど、企業における労働力不足は深刻な問題となっており、業務の効率化・自動化は避けて通れなくなりつつあります。

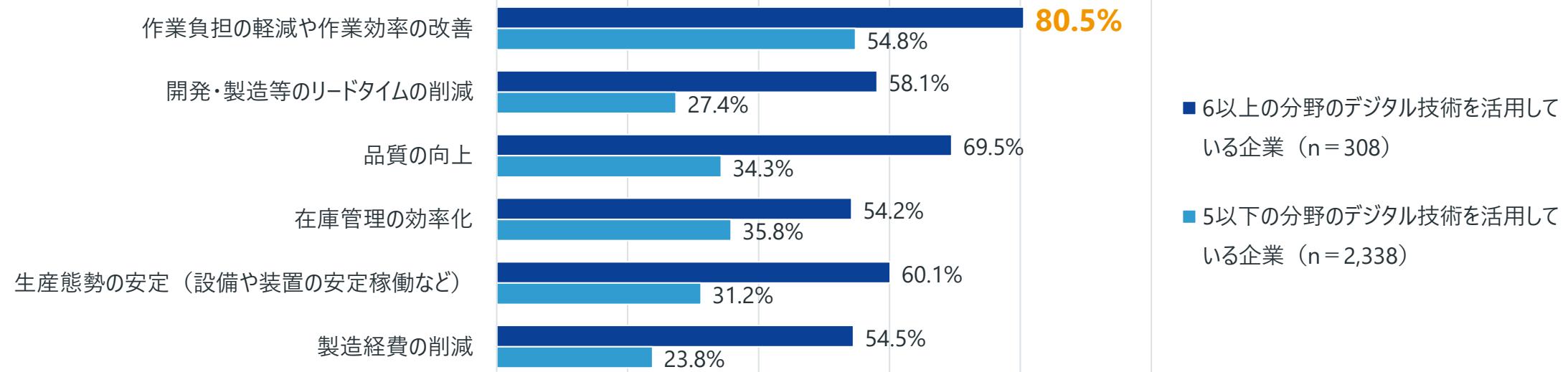
業務の効率化・自動化を実現するための手法はさまざまですが、近年ではデジタル技術を活用した業務の自動化がトレンドとなっています。

経済産業省「ものづくり白書2024年度版※」において、デジタル技術の活用による効果として「作業負担の軽減や作業効率の改善」をあげた企業は全体の**80.5%**にものぼります。（従業員数300人以下で、6以上の分野のデジタル技術を活用している企業へのアンケートを行った結果）

従業員数300人以下のデジタル技術活用企業

(n=2,662)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



出典：経済産業省「[2024年版ものづくり白書（全体版）第2章第4節（P71）](#)より」

ハイパーオートメーションとは

業務の効率化が求められるなか、自動化技術として注目されているのがハイパーオートメーションです。

ハイパーオートメーションとは、RPAやAI、iPaaS、ノーコード・ローコード、プロセスマイニングといった技術を組み合わせ、業務を自動化する手法を指します。

ハイパーオートメーションに利用される技術例

RPA

Robotic Process
Automation

PCで行う事務作業を自動化するソフトウェア
ロボット

ノーコード・ローコード

全くコードを書かない、もしくは最小限の
コーディングのみでアプリケーションを構築できる
手法

AI

自然言語処理や画像解析などにより作業や
判断を自動化する技術

プロセスマイニング

業務プロセスを可視化して分析、改善をするため
の手法

iPaaS

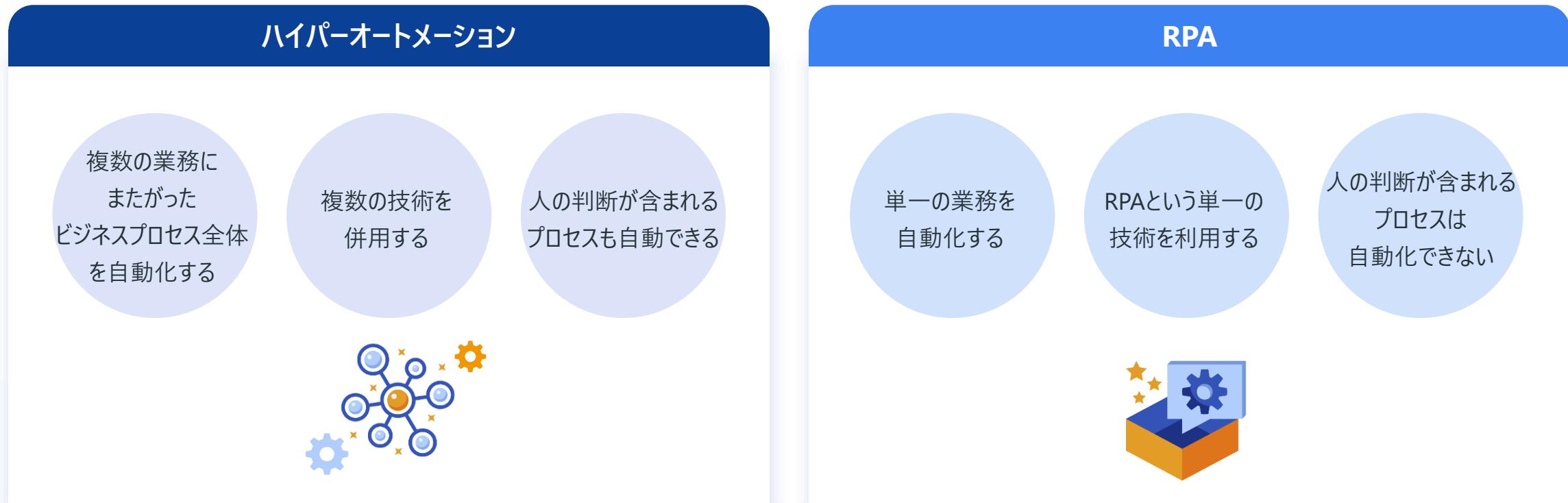
Integration Platform
as a Service

クラウド上でさまざまなアプリケーションを統合し、
データを連携できる技術



RPAとハイパーオートメーションの違い

ハイパーオートメーションについて「RPAとはどのような違いがあるのか」という疑問を持つ方も多いのではないでしょうか。
ハイパーオートメーションとRPAそれぞれの特徴は以下のとおりです。



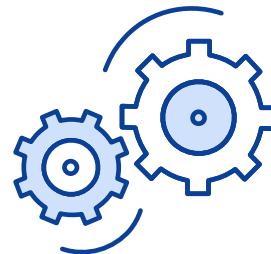
上にある通り、RPAは単一の技術により単一の業務を自動化するのに対し、
ハイパーオートメーションは**複数の技術を用いてビジネスプロセス全体を自動化**します。

ハイパーオートメーションの導入メリット

ハイパーオートメーションを導入すると、以下のようなメリットを得られます。

業務効率化・自動化の実現

- ・ 業務プロセス全体を効率化・自動化することで、多くの効果を得られます。
- ・ ハイパーオートメーションの取り組みを通して、**業務プロセス自体を見直すことも可能**です。



ミスのない作業の実施

- ・ ソフトウェアが定型的な作業を行うため、手作業によるミスを減らせます。
- ・ 人が介在しないことにより、**内部不正の防止**にも効果的です。
- ・ たとえば、金銭を取り扱うプロセスへの適用などでも、その効果を発揮します。



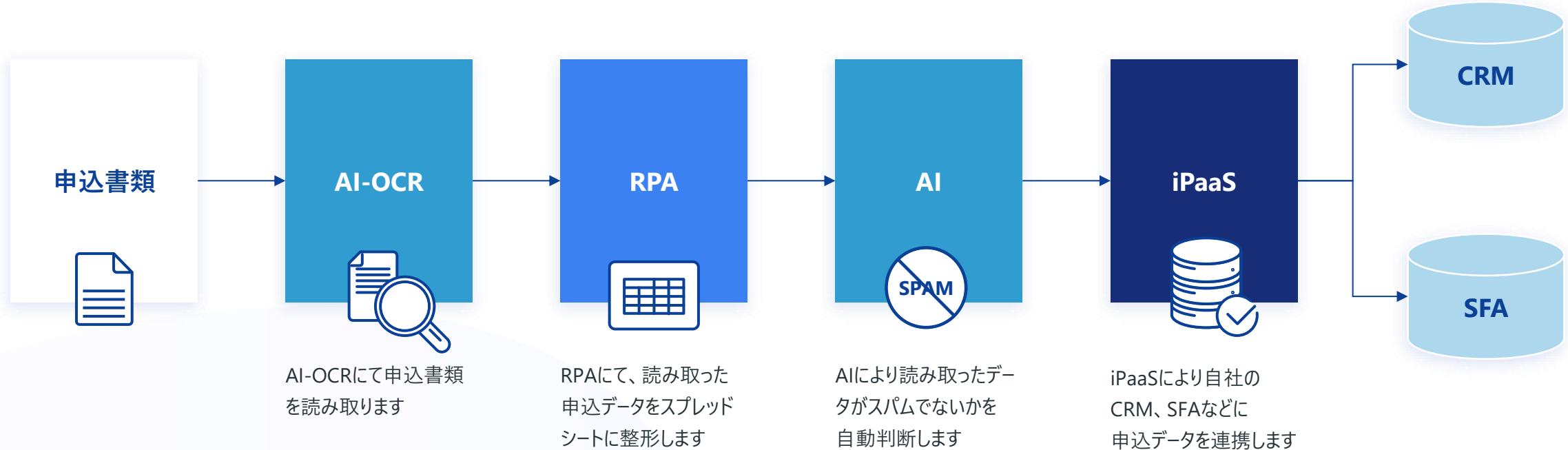
24時間連続で作業できる

- ・ ソフトウェアが24時間連続で作業を行うため、生産性が高まります。
- ・ これまで長期間を要していた作業も、短期間で実現できるようになり、**作業のリードタイムを削減可能**です。



ハイパーオートメーションの実現イメージ①：申込プロセスの自動化

ハイパーオートメーションを実現するためには、さまざまな技術やツールが必要です。ここでは、AI-OCR、RPA、AI、iPaaSを組み合わせたハイパーオートメーションの実装例をご紹介します。

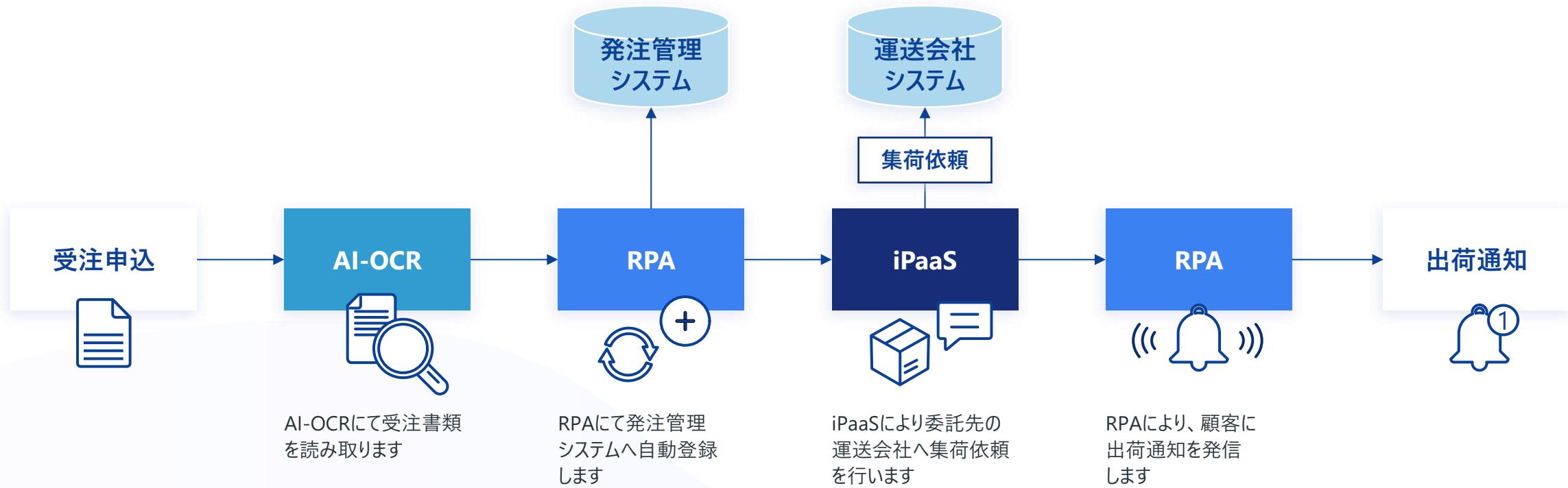


このように、ハイパーオートメーションではさまざまな技術を組み合わせることで、**申込プロセス全体を自動化**できます。

ハイパーオートメーションの実現イメージ②：受発注業務の自動化

ハイパーオートメーションにより、受発注業務の自動化も実現できます。

以下は、AI-OCRによる受注書類の読み取りやRPAによるシステム登録、iPaaSによる配送会社とのシステム連携などのプロセスを自動化する実装例です。



このように、ハイパーオートメーションにより、受注データのシステムへの自動入力や運送会社との連携、出荷通知の発信など、あらゆるプロセスの効率化・自動化が可能です。

ハイパーオートメーションの導入プロセス

ハイパーオートメーションの導入プロセスは以下のとおりです。

ステップ1

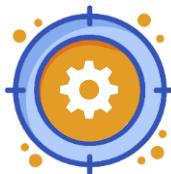
業務プロセス可視化



- 対象とする業務プロセス全体を、BPMツールやプロセスマイニングツールなどを用いて可視化します。
- このとき、無駄な業務の削除や業務手順の見直しなどをあわせて実行することで、効果が高まります。

ステップ2

導入スコープの検討



- 各業務プロセスのうち、どのプロセスを対象に、どの範囲まで自動化するかを検討します。
- 「定型的な作業」「判断基準が明確」といった条件に当てはまる業務プロセスが自動化しやすいでしょう。

ステップ3

ツールの選定と導入



- RPA、ワークフロー、AIなど、どのようなツールを用いてハイパーオートメーションを実現するかを検討します。
- 各ツールの比較検討を行い、自社に合った製品を選択することが重要です。

ステップ4

実装・検証



- ツールを設定し、業務プロセスの自動化を実現します。
- 実装後は必ず検証を行い、適切に動作するかを確認する必要があります。

ハイパーオートメーション実現に向けた課題

一方で、ハイパーオートメーションを実現するためには課題となりやすい事項もあります。

主な課題



適用する業務や運用を十分考慮する必要がある

- ハイパーオートメーションは気軽に導入できるものではなく、適用する業務や運用を考慮しなければなりません。
- どの業務に適用させ、どのように運用するかを十分に検討したうえで、ツールなどを導入しましょう。

必要とされるスキルが多い

- さまざまなツールを用いて実装するため、必要とされるスキルが多くなります。
- 業務プロセスの可視化、プロセスの再設計といった業務面でのスキルも必要です。

ツールの組み合わせに苦労する

- RPA、AI、iPaaSなど、各ツールをどのように選択するべきか悩むケースも少なくありません。
- 各ツールの選定に手間取ると、導入に時間がかかってしまいます。

ツール同士の連動性が課題となりがち

- 各ツールの相性も問題となります。「RPA製品AとAI製品Bの連動性が悪く、個別に連携機能を開発しなければならない」という事態も起こり得ます。
- 利用するツールの相性を調べて、うまく連動できるかをチェックするのは手間がかかります。

このような課題を踏まえると、**すべての機能がワンストップでそろった製品を選ぶ**ことでハイパーオートメーションをスムーズに導入できるといえるでしょう。

ハイパーオートメーションの実現に有効な「intra-mart」とは？

当社では、ハイパーオートメーションの実現に有効なツール「intra-mart」を提供しています。intra-martが備える以下の特徴により、ハイパーオートメーションの実現をサポートします。



intra-martの特徴

- ✓ RPA、ワークフロー、BPM、ロード開発、AIシステムとの連携など、ハイパーオートメーションに必要な機能を兼ね備えており
ワンストップでハイパーオートメーションに必要な機能がそろいます。



- ✓ 人が作業することを前提とした業務プロセスを、**エンドツーエンドで自動化**できます。非効率だった従業員の業務生産性を大幅に向上させられるツールです。



- ✓ ワークフロー領域において17年連続シェアNo.1のツールで、**豊富な導入実績**を誇ります。



- ✓ ハイパーオートメーション実現準備に役立つ**プロセスマイニングツール**としての機能も搭載しています。



intra-martによるハイパーオートメーションの実現事例

intra-martの導入によりハイパーオートメーションを実現
トーソー株式会社様

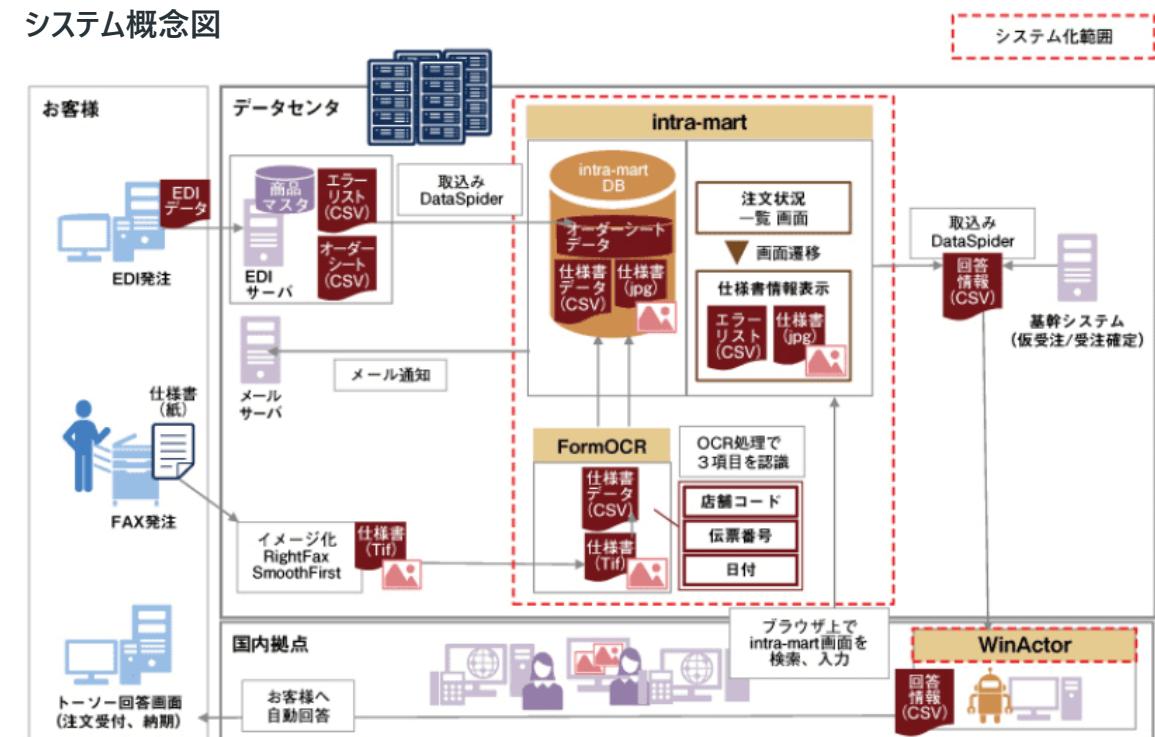


インテリア製品の企画、製造、販売を主要な事業とするトーソー株式会社様は、intra-martの導入によりハイパーオートメーションを実現しました。

同社では、これまで特定のユーザーからの注文処理に課題を抱えており、データ受領した注文書を紙に出力し、手作業で打ち直す手間が発生していました。

そこでintra-martを核に、OCR、RPAを組み合わせた受注効率化システムを構築。EDIデータとFAX注文書を、OCRで読み取ったデータと紐づけて処理し、納期などの情報をRPAで自動回答する仕組みを実現しました。

OCRの高い認識率により、最終的には**業務負荷を3割近く軽減**できる見込みのことです。



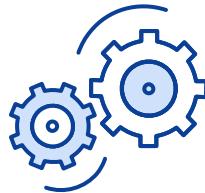
出典：NTTデータ イントラマート「導入事例 > トーソー株式会社様」

まとめ

本資料のポイントは以下のとおりです。

POINT1

ハイパーオートメーションは、RPAやAI、iPaaS、ノーコード・ローコードといった技術を組み合わせ、**業務プロセス全体を自動化する手法**です。



POINT2

ハイパーオートメーションにより、**業務の自動化・効率化**や**ミスの撲滅**、**24時間連続での稼働**による**生産性向上**などのメリットを得られます。



POINT3

導入にあたっては、さまざまな機能がワンストップでそろった製品を選ぶことがポイントです。当社では、**ハイパーオートメーションの実現に必要な機能がそろった「intra-mart」**を提供しています。



ハイパーオートメーションの導入により、自社の業務プロセスを大幅に効率化・自動化できる可能性があります。ご興味のある方は、ぜひ当社までお問い合わせください。



株式会社NTTデータ イントラマート

東京都港区赤坂四丁目15番1号 赤坂ガーデンシティ5階



<https://www.intra-mart.jp/>



contact@intra-mart.jp

- 掲載内容は2024年12月現在のものです。
- intra-martは株式会社NTTデータ イントラマートの登録商標です。
- その他の各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。